公共事業「道の駅」と地域振興に関する一考察

M1265315　塩　出　興　二

はじめに

なぜ「道の駅」か

補助金行政がいろいろ取りざたされ，特に巨大公共事業の評判は非常に悪い。巨額な投資，費用対効果における計算数値の根拠の曖昧さ，返す目処が立たない莫大な高利子の借入金，予測値を下回る需要，事業の長期化と計画段階からの社会変化への対応のまずさ，アカウンティビリティの不足による密室性と住民の情報開示への要求，巨大な事業費に群がる企業組織等公共事業が問題にされている。巨大公共事業の現在の財政や景気に対する影響は，様々なところで論じられているため，巨大公共事業の善悪を判断し，論じることは比較的容易である。

しかし，生活道路を作り，整備すること，水路を補修すること，住民の日々の生活に直結する生活環境を整備することにも，公共投資はなされているし，また，学校などの文教施設，老人介護などの福祉事業にも，当然公共の費用を振り向けなければならない。いわゆる，小さな公共事業といわれるものである。

人口減少，第一次産業の崩壊，所得の減少，高齢化，自然環境の崩壊が進む地域は，３度に渡る「過疎法」に基づき，公共事業によって地域の崩壊を堰き止めてきた。しかし同時に，地域の崩壊に危機感を持った人々は地域振興の活動を積極的に繰り広げていった。

「道の駅」は都市部にはほとんど存在していなくて，都市周辺の農村地帯か，都市から遠隔地の中山間地帯につくられていることが示すように，「道の駅」は地域振興の出発点になるよう構想されたものである。それが構想通り地域振興の出発点になっているのか，それとも従来型の公共事業になってしまっているのかが，今後の公共事業と地域振興の関わりを考える重要な課題の一つである。

本論文は，この課題を検討するために，第一に統計資料に基づいた分析，第二に「道の駅」へのアンケート結果の解析，第三に幾つかの「道の駅」のフィールドワークという三つの側面から実証的に明らかにしようとするものである。

今回の修士論文における章別編成は次のとおりである。

第１章　「道の駅」の歴史

国土交通省（建設省）の「道の駅」に関連する施策の時代変遷と，まちおこし，むらおこしにおいて「道の駅」に関連する事項を時代の流れのなかで検証した。

第２章　「道の駅」の認定と補助

第１節　「道の駅」の登録について

「道の駅」の登録の方法，「道の駅」に対する国土交通省およびその他の省庁の補助金について調査し，現在の「道の駅」の状況について考察した。

第２節　「道の駅」と地域振興

「道の駅」の地域振興施設の現状を調査するとともに，住民参加や「道の駅」の地域振興について考察した。

第３節　「道の駅」の計画

広島市において計画された「道の駅」に対して，検証をおこなった。

第３章　アンケートにみる「道の駅」の現況

第１節　「道の駅」の施設

第２節　「道の駅」の問題点

第３節　「道の駅」の満足度調査の解析

第４節　現地調査で見た「道の駅」

平成13年８月までに認定された649カ所の「道の駅」にアンケートを実施し，その回答を集計・解析・検討した。アンケートは，記述部門と，満足度調査の部分に分かれているが，それぞれの部門で，項目ごとに検討を加えた。「道の駅」管理者に対して行われた今回のアンケートの解析により，「道の駅」管理者が，現在「道の駅」をどう認識しているかを知ることができた。

また，フィールドワークとして実際に「道の駅」管理者に聞き取りを行うとともに，「道の駅」の視察をおこない調査結果をまとめた。

第４章　展望－「道の駅」を地域振興に生かすために－

「道の駅」の様々な問題点について，問題提起と解決の糸口を示唆するとともに，「道の駅」の現時点における総括をおこなった。

地域における小売店での顧客満足戦略

―― 東広島市の生活雑貨店舗を例として ――

M1265318　進　藤　綾　子